



# ようぼくが成人するために



関東地区芦津会。教会から遠く離れていても、御用を担う心を持って(11月10日)

# 真明

発行所  
天理教芦津大教会  
〒546-0003  
大阪市東住吉区  
今川8丁目6番32号  
電話 06 (6702) 1980  
FAX 06 (6700) 1854  
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp  
印刷所 天理時報社

一寸はなし神の心のせきこみハ  
よふぼくよせるもよふばかりを 三号 128  
よふぼくも一寸の事でハないほどに  
をふくよふきがほしい事から 三号 130

ようぼくが活躍するのは、自分たちが生活している地域と所属する教会です。

普段の生活の中で周囲に心を配り、病気やケガなどで悩み苦しんでいる方のおたすけを心掛ける。そして、神様にお働きいただくために教会に足を運び、月次祭でおつとめを勤めるなど、自分ができる教会の御用を担い、たすけの理づくりをする。足繁く教会に参拝して心のほこりを払い、自分の心が「天の定規」からずれていないかを確認して、修正する。ようぼくが成人するためになくてはならない場所が、それぞれが所属する教会です。

真柱様は秋季大祭で、もっとたくさんできるようぼくが教祖の年祭に心を向け、年祭活動に取り組むことを望まれました。教会によって年祭に向けての心定めや活動は違いますが、「教会の心定め」の一端を、私も担わせていただきます」と、全てのようぼくが固く心を定め、実行することで、真柱様の思いにお応えさせていたきたい。教会の御用を我が事として教会に心を寄せ、足を運び、心定めを実行して、教祖にお喜びいただきましょう。

## 正面四方

境内地の紅葉を眺めながら、「季節の暮らしをしてみること、それが人間の骨格をつくっていくんだ」という言葉を思い出した。

コロナ禍は、人が自己肯定できるような場所を塞ぎ、日々の小さな暮らしがどんなに大変で尊いことかを忘れ去った、その顛末ではないか、と憂う歴史社会学者の姜信子さんの著書の一節である。

ハイポニカという水耕栽培の手法があり、トマトに用いると、一本の木に1万を超える実がつくらしい。一方、普通に土で育つとなぜそこまで実らないのか。「生存の適正環境を守ろうとする自然界の『慎み』の問題である」と分子生物学者の村上和雄先生が『生命の暗号』で説いている。遺伝子にあると考えられる「慎み」は、親神様から私たちの魂に授けられた宝であり、天然自然に身を置く私たちの骨格である。

《秋季大祭神殿講話》

# さんげと成人の心定めは 二つ一つの不可分のもの

大教会長 井筒梅夫

## 節の受け止め方

人生には、節はつきものです。個人の節もあれば、家族に見せられる節も、また教会が節に遭遇することもあります。

こうした節が起ったときには、それをどう受け止めるかが大切です。節とは、おさしづによれば、もうあかんかいなあ〜というは、ふしという。

明治37年8月23日  
ずつない事はふし

明治27年3月5日  
とあります。「ずつないこと」とは、なす術がないという意味です。節というのは、もうどうしようもないというほどの出来事を指しますが、このお道の信仰は、節を節で終わらせない、節から芽が出る

御守護を頂く信仰です。

この節から芽が出る鍵になるのが、節の受け止め方です。節について論達第四号では、「また、あるときは、『ふしから芽が出る』と成ってくる姿はすべて人々を成人へと導き下さる親神様のお計らいであると論され、周囲の人々を励まされた」と、節の受け止め方を教えていただいています。

節には親神様の「子供に成人させてやりたい」という親心があり、その親心に気付くことで、その節の意味が分かり、節の中に喜びを見つけることにもなってくると思います。これが節から芽が出る御守護に繋がるのです。

## 親心の教え

お互いの信仰初代の道を考えれ

ば、大半が身上や事情の節から手引かれて信仰の道についています。では、代を重ねたお互いは、お手引きを頂かないかといえは、そんなことはありません。いくら信仰していても心得違いもあれば、道に迷うこともあります。「このままでは危ないぞ」というようなときは、親神様が手を引いてくださるのです。

私が、本部の布教修行所で1年間にをいがけに従事していたときに、他宗教の布教師の方と話をする機会がありました。その神様は、その教えを信仰する者だけで楽園を築き、信仰しない者はこの世から消滅させると言い、さらに「世の中には破滅へ導く悪魔が、いろいろな宗教を開いている。天理教もその1つだから、うちの宗教に入信しなさい」と天理教から改宗することを勧められたのです。教祖を悪魔と呼ばれて黙ってはおれません。そこで「あなたの神様は人間をつくってくださいった親ですか?」と尋ねると、「私たちの親です」と答えたので、「では、自分

のことを信じる子供だけで楽園をつくって、言うことを聞かない子供を消滅させるような親がいますか?」と聞きますと、その人は言葉に詰まりました。

子供が2人いるというその布教師に、「1人はあなたのことを信じ言いつけを守る子。もう1人は全く言うことを聞かない子。その2人を私と手を繋ぎなさいと指示し歩いていたとき、言うことを聞く子は手を繋いだが、言うことを聞かなかった子は車道へ飛び出し、交通事故に遭った。そのとき、あなたは『私の言うことを信じなかったから、あなたは事故に遭ったのよ。この世から消滅したのはあなたの自己責任よ』。反対に手を繋いでいた子には、『言うことを信じて偉かったね。2人で、楽園に行きましょう』と、あなたは言うのですか。あなたは天理教教祖のことを悪魔というが、あなたの神様こそ悪魔に近いんじゃないですか」と言うと、その布教師は顔を真っ赤にして憤慨していました。この他宗教の布教師との会話を通して、

私は本当にありがたい教えを信仰しているんだと嬉しくなったことを思い出しました。

天理教は親心の教えです。身上や事情は「その心遣いは間違っているで。そっちに行ったら危ないで。陽気ぐらしはこっちゃで」と、可愛い子供の成人を思う親心から、親神様がそっと手を引いてくださっている姿です。これがお手引きです。

あらゆる節には親神様の慈愛溢れる親心があることを心に置かせていただきたいと思います。

## 一歩前進した思案を

節は身上や事情のお手入れとして現れます。

おふでさきに、  
せかいぢうどこのものとハゆハんでな  
心のほこりみにさハリつく

五号 9

とあるように、ほこりの心が身上に現れます。ですから、身上のお手入れはほこりの心を払い、胸の掃除をする機会であると捉えることが肝心です。また、

せかいぢうどこがあしきやいたみしよ  
神のみちをせてびきしらすに

二号 22

と、身上、事情は「みちをせ」でもあります。「みちをせ」とは漢字で「道教え」と書きます。

つまり、お手入れは真にたすかる道への道標であって、「こっちの方へ進むんだよ。こういう心遣いをするんだよ」と手を引いてくださる親心です。

この「みちをせ」より少し厳しいお手入れに「ざねん」があります。残念という意味です。

とのよふなせつない事があってもな  
やまいでわなないをやのさねんや

十四号 77

とあります。親の残念とは、こんな心遣いや通り方をしていたら、たすかるものもたすからないということを知らせてくださっている親心です。

さらに厳しいお手入れに「いけん、りつぶく」があります。

このさハリてびきいけんもりいふくも  
みなめへくにしやんしてみよ

五号 20

と、「こういうことをしていたら、たすけ一条の道役には立たない」と、親神様は時には厳しく心の入れ替えを要求されることがあります。子供のことを思うがための、これも親心です。このようにお手入れにはいろいろあります。

私たちは、時として厳しい身上や事情を頂くことがあります。そんなときに救いとなる、心強いおふでさき、つまり親神様の思召があります。

これほどにさねんつもりであるけれど心しだいにみなたすけるで

十五号 16

いかほどにさねんつもりであるても  
ふんばりきりてはたらきをする

十五号 17

どのよふにいけんりいふくゆうたとて  
これたすけんとさらにゆハんで

五号 22

と、厳しいお手入れであっても、心次第に皆たすけ、踏ん張り切つて働きをする、たすからないとは言わないと、親神様はちゃんと心を持ってたすけの手を差し伸べてくださっているのです。また、

いかなるのやまいとゆうてないけれど  
みにさわりつく神のよふむき

四号 25

よふむきもなにの事やら一寸しれん  
神のをもわくやまくの事

四号 26

と、あります。「よふむき」とは一般的には「用事、用件」という意味です。おふでさきに出てくる「よふむき」は、たすけ一条の御用であり、親神様がこの御用に使う、という意味です。

増井りん先生が失明を御守護いただかれて、初めてお屋敷に帰ら





れた際に、教祖から次のようなお言葉を頂かれました。

「さあ、いんねんの魂、神が用におおうと思召す者は、どうしてなりと引き寄せるから、結構と思うて、これからどんな道もあるから、楽しんで通るよう、用に使わねばならないという道具は、痛めてでも引き寄せる。悩めてでも引き寄せねばならん……」

『稿本天理教教祖伝逸話篇』

### 36 「定めた心」

御用に使おうと思われたら、どんなことをしても引き寄せられる。私たちは、身上にさわりを頂いたらさんげをし、ほこりを払って心の入れ替えに努めるのはもちろんのことですが、「これは神様が御用に使うと言ってくださっているのだ」と、一歩前進した思案をし、たすけ一条の御用に努める心を定めることが大切です。

### さんげと成人の心定め

ほこりの後にはいんねんの道がついてきます。いんねんには、陽気ぐらしの元のいんねんと、めい

めいがほこりの心で積んだいんねんの2つがあります。

この世の元初りに、神様は人間一人ひとりに陽気ぐらしができる魂をお与えくださいました。すべての人間は陽気ぐらしができる元のいんねんがあります。

その一方で、めいめいがほこりの心を積み重ねてつくってしまいたいんねんがある。人はこのいんねんで苦しむのです。誰しも思い当たらないことで悩んだり、身に覚えのないことで苦しむことがあります。これが前生のいんねんです。

この前生のいんねんをさんげし、陽気ぐらしの元のいんねんに切り替えていただくのが、たんのうです。おさしづに、

成らん中たんのう、治められん  
処から治めるは、真実誠と言う。  
前生いんねんのさんげとも言う。

明治30年7月14日

ならん中たんのうするは誠、誠は受け取る。(中略)ならん中たんのうするは、前生さんげ、と言う。ようこれ聞き分け。

明治30年10月8日

と教えられるように、前生のいんねんを大難は小難、小難は無難に御守護いただくには、たんのうする他ない。しかも、ならん中、難しいところをたんのうさせていただくしかないのです。

とても喜べない状況をたんのうして喜ぶなどできないと感じますが、親神様は、前生のいんねんを喜ぶようにはなく、前生のいんねんをさんげするようにとおっしゃっておられます。自分の預かり知らないことを自覚してお詫びをするのは、難しいことです。しかし、親神様はこれをせよとおっしゃるのです。

例えば、子供のことで悩めば、「前生で親不孝したのかな」と、今は身に覚えのないことだけれど、私が前生に蒔いた種に違いないと、これを自覚して親神様、教祖にさんげしてお詫びを申し上げることを、たんのうとして受け取ってください、前生のいんねんを軽くしてくださいのです。

ところで、ほこりの心で積んだ

いんねんについては、良いことをして徳を積みめば、ほこりは帳消しになると考える人もいますが、これは勘違いです。

今生に人だすけをし、徳を積みめば、その後、今生、また来生にはうれしい徳となって現れる。一方で、積んでしまったほこりをそのままにしておくと、今生、また来生にはいんねんとなって現れてきます。蒔いた種は、良い種も悪い種もそれぞれに生きてきます。

ですから、ほこりの心を使えば、さんげし、積んだほこりはしっかりと払い、心の入れ替えをする必要があるので。これを怠ること、それが悪いいんねんとなって苦しむことになるので、今生で積んだほこりの心はそのたびにしっかりと払い、胸の掃除をすることが肝心です。お言葉に、

さんげだけでは受け取れん。それを運んでこそさんげという。

明治29年4月4日

というお言葉通り、ほこりの種を掘り返したら、そこに人だすけの種や御恩報じの種という、真実の

種を蒔くことが心のさんげの姿であって、ここに前生のいんねんを切っていたく道があるのです。御守護を頂戴するためには、まずわが身を省みてさんげをし、心の入れ替えに努めて、その上で真実の種を蒔くことが肝心です。さんげと成人の心定め、これは二つ一つは不可分のもので、お互いはいはこれをしつかりと肝に銘じたいと思います。

### 節から芽が出る御守護への道

おさしづに、  
さあ／＼ふし／＼、ふし無くば  
ならん。ふしから芽が出る。

明治 22 年 5 月 12 日

とあります。節から芽が出るということは、裏を返せば芽を出すために節はあるということです。講話の最初にあげたおさしづには続きがあります。

もうあかんかいなあ／＼という  
は、ふしという。精神定めて、  
しつかり踏ん張りてくれ。踏ん  
張りて働くは天の理である

明治 37 年 8 月 23 日

もうだめだと思うような節でも、精神を定めて諦めずにしつかりと踏ん張って通れば、親神様は踏ん張って働いてやると仰せくださっているのです。また、

ずつない事はふし、ふしから芽  
を吹く。やれふしや／＼、楽し  
みやと、大きな心を持つてくれ。

明治 27 年 3 月 5 日

と、心次第で節から芽は吹くのだからその先を楽しみにして、大きな心を持つてくれと、節に直面した心構えをお示しくださって、お励ましくなさっています。

親神様から頂く御守護は心通りの御守護です。私たち一人ひとりの目の前に開けている世界は心通りの世界であり、いんねん通りの世界です。それ以上でもそれ以下でもありません。

ですから、節を見せられたら、わが心を省みて心のほこりを払い、胸の掃除に励んで、心の入れ替えに努めることです。たんのうさせていたでいて、前生のいんねんをさんげさせていたくことです。そして「この節は私自身が育ち、

成人するための、また心からたすけていたくための、親神様の親心溢れるお計らいだ」と前向きに受け止めて、節から芽が出る御守護への道を歩ませていただきたいと思っています。

### 一生懸命に勇んで

年祭活動 2 年目も終盤を迎えました。盛り上がりにかけていると感じる人や、教勢自体が沈滞していると思う人もおられると思います。しかし、これまでを振り返ると、お道全体、芦津の道、またそれぞれの教会においても、今と比べものにならない厳しい状況をたびたびと経験しています。その大変な中を、私たちの先人たちは親神様の御守護を信じてもたれ切り、教祖の御存命の理にすがり、一つ一つになって厳しい節を幾度も乗り越えて、今へと道を繋いでくださったのです。これは後に続く者にとってのお手本です。

私たちが先人の道すがらを手本とすべき大切な一つが、一生懸命さであります。先人はそれこそ一

生懸命になってこの道を通ってくださった。努力に努力を重ねられたでしょうし、時には何くそと思つて努められる日もあったと思います。諦めることなく、一生懸命に勇んで信仰の道を通ってくださったおかげで、節から芽が吹く御守護を頂かれたのです。

この道は、この世治める真実の道であつて、間違いない確かな信仰です。心次第にどんな御守護も頂ける道です。

私たちは今、たすけの句、成人の句である年祭活動三年千日の真只中に存在するという事実を、お互い改めて自覚をさせていたいただきたいと思ひます。そして御存命の教祖をもっと身近に感じ、教祖にご安心いただき、お喜びいただきたいと思ひ念じて、時句の御用に一生懸命に励み、働かせていただきたいと存じます。

どうか皆さん方の、一層勇んだ時句の道の歩みをお願いを申し上げる次第です。

何卒、一同の時句の上に勇み励む誠の心をお受け取り下さいまして、おたすけと丹精に向かうところには不思議たすけの理を賜り、難しい身上や困難な事情も治まりと解決へとお導き下さいまして、楽しみづくめの世の状態へとお連れ通り下さいますよう、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

秋季大祭 祭典役割																				
胡 三 琴 味 琴 弓 線			小 すり 太 拍 ち 鼓 りが 鼓 子 ゃ ね ね 木 ン ば ン			地 方			てをど り			扨 者		扨 者		祭 主				
井 瀧 今 筒 本 川 ち 基 和 ぐ 志 子 さ 枝			岩 岡 湯 奥 川 山 切 島 川 田 畑 本 正 秀 正 澄 義 教 男 圀 徳 博 範			奥 守 井 田 田 筒 眞 清 文 治 一 夫			奥 前 会 田 会 長 富 長 夫 人 美 夫 人			大 井 瀧 教 筒 本 会 敏 眞 長 成 二 郎 成 郎		座りづとめ		加世田洋		大 教 会 長		
梶 松 望 川 森 月 文 明 恵 子 美 美			木 立 浜 吉 中 岩 村 花 田 田 村 切 眞 善 宣 裕 俊 正 次 文 郎 和 和 義			立 河 山 花 端 田 善 芳 道 三 雄 弘			梶 竹 吉 西 梶 瀧 川 内 田 本 川 本 り 淳 幸 義 和 庄 よ 子 子 之 隆 司			前 半		賛 者		賛 者		指 図 方		
奥 瀧 山 田 本 本 千 美 広 晶 奈 子			吉 榎 岡 樋 望 川 田 本 川 月 畑 裕 康 久 泰 慶 正 樹 紀 昭 士 太 博			村 新 奥 田 居 田 光 里 正 伸 実 儀			中 木 岩 今 西 花 村 村 切 川 本 岡 寿 理 治 聖 興 忠 々 恵 代 一 正 和 代 恵 代			後 半		梶 川 和人		石 川 健 郎		今 川 政 治		
今 山 山 堤 荒 宗 梶 望 瀧 川 吉 湯 村 今 西 新 花 岡 中 浜 西 瀧 山 川 伝 川 本 田 木 我 川 月 本 畑 田 川 田 川 本 居 岡 本 村 田 本 本 本 畑 供 義 直 文 志 道 芳 慶 正 裕 正 光 聖 興 里 忠 久 俊 宣 義 庄 義 澄 保 彦 実 雄 朗 明 征 太 亘 博 樹 信 伸 一 正 実 和 昭 和 郎 之 司 範 博																	湯 川 正 圀		献 饌 長	



## 関東地区芦津会開催

11月10日、「第32回関東地区芦津会」が、大教会長をお迎えして東京教務支庁を会場に開催され、41名が参加した。

三殿礼拝の後、座りづとめとよろづよ八首を鳴物を入れて勤め、参加者は総立ちでてをどりを勤めた。その後、竹内義忠役員よりおさづけの取り次ぎについてお話があり、参加者は2人1組になって、お互いにおさづけの取り次ぎをさせていただいた。

次に『論達第四号』を拝読し、続いて大教会長からお話。大教会長は、論達にある教祖の3つの言葉から教祖のひながたの道を分かりやすくお話しくださいと、年祭活動仕上げの年を迎えるにあたり、「おちば帰りと修養科生の御守護に心を向けて共に歩ませていただきたい」と句の動きについて奮起を促された。

神殿で記念撮影の後、食堂で懇親会。ビンゴが催されるなど終始和やかな雰囲気の中、開会した。

## 第98回青年会総会

## 青年会

10月27日、本部中庭で「おやさとしん青年会ひのきしん隊結成70周年記念第98回青年会総会」が開催された。

青年会芦津分会（井筒敏成委員長）は、朝9時に詰所に集合し、揃って本部中庭に移動。管内高校生を含む大勢の青年会員が式典に参加した。

式典では、青年会長・中山大亮様が御告辞を下された。青年会長様は「心を澄ます毎



総会当日、参集した青年会員

日を。」をテーマに「ほこりを減らし、誠を増やす」ポイントとして、「待つ」「自分の心に矢印を向ける」「悟ったことを話す」と話された。

その後、真柱様のメッセージを中田善亮表統領が代読。結成70周年を迎えたひのきしん隊の歴史と意義に触れられ、これまで大切にしてきた理念をしっかりと受け継いでもらいたいと要望された。

総会前日の26日夕づとめ後には、東西泉水プール前で前夜祭が開催され、芦津分会は焼鳥を出店。昨年の倍にあたる1千食を完売した。

## こかん様に続く会・木綿の会

## 婦人会

婦人会女子青年（井筒たつえ委員長）は10月27日、詰所で「こかん様に続く会」を開催。女子青年、女子会14名、

最初に、婦人会担当者からこかん様についてのお話を聞いた後、天理市南部の柳本町に移動して神名流し、路傍講演を行った。



こかん様に続く会 路傍講演の様子

参加者からは「こかん様は大変なご苦労の中、教祖が仰せられたことを素直に聞いて通られました。私も少しでもその道に続かせていただきたい」と思い、路傍講演を務めました。路傍講演は自分の心遣

いを見直すことに繋がり、とてもいい時間になりました」などの感想が聞かれた。

また10月31日には、木綿の会を詰所で開催した。

当日は10時30分より本部神殿で参拝。昼食後、井筒年子支部長から教祖についてのお話を聞かせていただいた。その後はティータイム。お茶を頂きながら、今後の活動について意見交換を行った。

参加者からは「他の教会の方と話をする機会がありませんだったので、勉強になりました」などの意見が聞かれた。参加者は7名であった。



木綿の会 和気あいあいとティータイム



## ファミリーおつとめの集い

稗島分教会

11月3日、稗島分教会（竹内義忠会長）は、コロナ禍のために中断していた「ファミリーおつとめの集い」を5年ぶりに開催した。

はじめに5交代でおつとめを勤め、「論達第四号」を拝読した後、竹内会長が挨拶。親神様の御守護について説明し、日々感謝して通ることの大切さを伝えた。

その後、場所を食堂に移し、模擬店やゲーム、出し物などで、家族揃って楽しい時間を

過ごした。

参加者は92名であった。

## 教務部報

教人資格講習会第145回修了

谷上 由樹（眞 一）

立教187年10月11日

おさづけの理拝戴《9月》

岩切 大道（四ツ山）  
谷 俊彦（上池）

《拝戴日順 2名》

初席《9月》

《2名》紀船、白野江、理風  
《1名》島新、毛見、稗島、  
鳥栖、當別、紀周

《順序運びより 12名》

## 登殿参列《9月》

坂井 清人（畦川）  
仁尾 智教（三好）  
松浦 泰則（東祖谷）  
多川 明仁（善徳）  
山田 大幸（島長）  
湯川 正信（日方）  
吉田 道忠（今津原）  
湯川美紀子（輝浪）  
足利世司子（神輝誠）  
上野 勝正（毛見）  
川畑 正博（始良）  
元見 健一（大笠利）  
榮 武博（大崎原）  
井上 康広（美和名）  
井上 隆文（理風）  
岡本 公夫（眞伯）  
以上16名

月例統計（自令和6年1月1日～至令和6年9月30日）

項 目 名 称 ( ) 内教会数	初 席	の お 理 さ づ け	修 養 科 修 了	教 人
大 教 会 (1)	9	7		
東 津 (13)	5	1		1
吉 野 川 (29)	8	2		1
島 原 (16)	18	3		1
日 方 (15)	11	4	1	
稗 島 (7)	5	1		
本 津 (2)	1	1		
日 高 (2)				
始 良 (5)	1			
津 和 (12)	3	3		
門 司 (6)	6			
當 別 (6)	2			1
大 島 (26)	20	8		2
沖 縄 (3)	2			
尼 崎 (2)	1		1	
四 山 (5)	2	3		
大 冠 (2)				
島 下 (1)				
天 保 (3)				
青 木 (1)				
芦 浪 (1)	4			
甲 邊 (1)	1			
芦 華 (1)				
天 津 (1)				
入 江 (1)				
豊 野 (1)				
紀 周 (3)	10			
勝 明 (1)				
神 の 島 (1)		1		
兵庫眞洲 (1)	2			
芦 ノ 郷 (2)	2			
本 明 勇 (2)	1	1		
明 道 (1)	4			
芦 東 (1)				
和 鎮 (3)	3			
神 滝 本 (1)				
芦 明 徳 (1)				
眞明彰化 (2)	12	3		1
本 氣 (2)				
芦 明 照 (1)				
眞 伯 (1)				
合 計 (209)	138	40	2	7

立教  
188年

## 学生生徒修養会 参加者募集

### 大学の部

令和7年 **3/4**(火)-**8**(土) (4泊5日)

参加費：10,000円 定員：700名

### 高校卒業生コース

令和7年 **3/10**(月)-**12**(水) (2泊3日)

参加費：5,000円 定員：400名

○申込期間 12/25～2/15 願書に必要事項を記入して、  
芦津学生担当委員会（木村・奥田）までご提出ください。

※願書は詰所・大教会の事務所にあります。